

コレクション展Ⅳ「心のイメージ」開催のお知らせ



大分県立美術館では、11月30日（土）より2024年度コレクション展Ⅳ「心のイメージ」を開催します。つきましては以下に展覧会概要をお知らせします。

開催概要

美術家たちは自らの心の中で作り出したイメージを様々な手法で表現しています。江戸時代の南画家たちは、見ることでできない中国の仙境を心の中でイメージを膨らませながら描き出しました。近代に入ると眼に見える世界を超越した心の内面を表現しようとする美術家たちがあらわれます。日本画家・高山辰雄※は、自然と人間とのつながりや、生命の不思議に思いをめぐらせ、その思念の先に紡ぎ出した象徴的なイメージを通じて独自の画境を切り拓きました。洋画家・糸園和三郎は、シュルレアリスムを創作の起点として、静かな心象風景の中に、現代に生きる人々の不安や孤独を詩情豊かに描き出しました。本展は「生誕120周年 サルバドール・ダリ」展の開催にあわせて、大分県立美術館のコレクションより人間の心の内面を写し出した作品を紹介します。

※高山辰雄の高ははしごだか

展覧会のみどころ

みどころ1**生命誕生の神秘**

こわばった姿勢でじっと一点を見つめる母親と羊水に包まれた嬰兒。画面上方の白い帯は、子供が生まれる前の無限の時間を表しているといいます。生命誕生の神秘を象徴するかのようなこの作品には、高山辰雄の「生」に対する希望と不安が母の想いとして写し出されているようです。

高山辰雄《母》1970年





みどころ2

生と死を見つめて

糸園和三郎は子どもの頃に骨髄炎を患って以来、常に病氣と隣り合わせの人生を歩みました。本作品は48歳の時に生死を分ける大病を患った直後に制作された作品です。飛び立つ鳥を見上げる青年の姿には、絶望的な状況の中で、生と死を見つめる画家の心境が映し出されているようです。

糸園和三郎《鳥と青年》1959年

みどころ3

日本画のシュルレアリスム

手前のテーブルには様々な種類の蛾と昆虫標本を製作するための用具が並べられ、奥には一組の男女が横たわっています。なんとも不可思議な光景を軽やかな明るい色彩で描き出した本作品は、田口壮が新しい日本画の創造を目指して仲間とともに立ち上げた歴程美術協会の第1回展の出品作。シュルレアリスムをいち早く日本画に取り入れた意欲作です。

田口壮《季節の停止》1938年



展覧会名：コレクション展IV「心のイメージ」

会 期：2024年11月30日(土)～2025年1月27日(月)

休展日：12月23日(月)は展示替えのため休展

時 間：10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

会 場：大分県立美術館 3階 コレクション展示室

観覧料：一般300 (250) 円、大学生・高校生200 (150) 円

※()内は有料入場20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※大分県芸術文化友の会 ひびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金

※高校生は土曜日に観覧する場合は無料

※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料

※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料

主 催：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

関連イベント

びびコレクション展オープニングレクチャー

日時：2024年11月30日(土)14:00～15:00

学芸員によるギャラリートーク

日時：2024年12月8日(日)、22日(日)、2025年1月12日(日)、1月26日(日)

各日14:00～15:00

※予約不要・要観覧券

※予定は変更になる可能性があります。最新情報は当館ホームページにてご確認ください。

★ コレクション展 IV 「心のイメージ」 チラシ

関連イベントについては、大分県立美術館の公式ウェブサイトをご覧ください。

コレクション展IV「心のイメージ」

お問合せ：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県立美術館

学芸企画課（展覧会担当）吉田

管理課広報担当 安東・山口

Tel 097-533-4500 E-mail:info@opam.jp